

第2回丹後沿岸海岸保全基本計画検討委員会 議事概要

開催日時：令和8年1月13日（火）

10：30～12：00

形式：対面（Web 併用）

会場：舞鶴市西駅交流センター3F ホール

■会議の目的

丹後沿岸海岸保全基本計画について、気候変動の影響を考慮した計画に変更するにあたり、学識者や海岸利用者等の幅広い視点から多様な意見を聴取することを目的とする。

■概要

丹後沿岸海岸保全基本計画技術検討会により、設定された各海岸保全区域の計画外力及び防護水準を踏まえ作成した丹後沿岸海岸保全基本計画（変更）の中間案について、各委員から意見を聴取したもの。

【議事】

- ・第1回検討委員会での主な意見と対応
- ・丹後沿岸海岸保全基本計画（変更）の中間案について

■会議結果

- ・丹後沿岸海岸保全基本計画（変更）の中間案について、概ね了承を得た。
- ・委員からの意見を受け、中間案を一部修正のうえ、パブリックコメントを実施する。

■主な発言内容

●浸水被害状況と気候変動を考慮した施設整備の進め方について

【委員】

資料①p.8の浸水実績の概要において、舞鶴湾沿岸で浸水が頻発しているが、浸水実績と現況天端高との関係や、浸水被害を防止するためにどの程度嵩上げが必要なのかを教えてほしい。

また、気候変動対応は老朽化対策と分けて行うのではなく、トータルコスト削減の観点から一体的に整備を進める必要があり、その観点も本計画に含めることが望ましい。

【事務局】

浸水原因の詳細までは整理できていないが、舞鶴湾では潮位上昇により内水排除が困難となるケースが多いと考えている。

そのため、海岸保全施設の高さのみでは対応が難しい場合もあり、市のまちづくりと連携した対策が必要と考えている。

気候変動対応については、老朽化対策と一体的に実施することを検討したい。

●気候変動の影響に関するモニタリングについて

【委員】

資料①p. 3～5 の将来変化比を用いた推計値について、気候変動前の値をモニタリングの基準となる現況値として扱ってよいのか。

【事務局】

気候変動時にどの外力がどの程度影響するかを確認するための参考値であり、モニタリングと直接対応づけるものではない。

【委員】

波高や潮位偏差の現況はどのように認識しているのか。

【事務局】

全海岸では難しいが、神崎海岸など設計を実施している海岸では、設計条件を現況の参考とできる。

【委員】

将来の計画外力は技術検討会で決定されているが、それらの算出に用いられた簡易推定式の妥当性は技術検討会で確認されているという理解でよいのか。

【事務局】

簡易推定式の妥当性については、技術検討会で議論・審議いただいております、一定の妥当性は確保されている。

【委員】

資料③p. 45 に将来の計画外力一覧が示されているが、今後のモニタリングにおける目安として、気候変動前（現在）の外力の整理が必要であると考えます。

これにより、予測どおりに外力が変化しているのか、上振れ、下振れしているのかの比較が可能となると考えます。

【事務局】

整理方法について、検討する。

【委員】

今後の気温上昇等の外的環境の変化により、動植物の生態系や陸域からの土砂供給量に変化することが想定されるため、これらのモニタリングも必要であると考えます。

【事務局】

モニタリングの重要性は認識しているが、全海岸での実施は難しいため、重点化や新技術の活用等も含め、検討したい。

●防護水準について

【委員】

資料②p. 11～14の現況天端高と将来の計画天端高を比較すると、多くの海岸で気候変動による海面上昇分以上に不足しているが、これは現行の計画水準まで達していないということか。

または、多くの海岸で現況の堤防高の設定根拠が不明で、今回の気候変動対応も含め、計画外力を丹後沿岸で統一的な考え方に見直し、防護水準を設定したということか。

【事務局】

今回、計画外力を丹後沿岸で統一的な考え方に見直し、防護水準を設定したものである。

現況施設は、過去の被災事象や観測記録に応じて個別に設定された施設が多く、今回の統一的な考え方のもとで整理した結果との差が生じている。

【委員】

現況天端高は建設当時の設計において決定された高さであるという理解でよいか。

【事務局】

そのとおりである。

【委員】

そうであれば、気候変動の考慮だけではなく、丹後沿岸全体として計画外力を統一的に見直したことの説明が計画内に記載されている方が本計画を見られる方にもわかりやすく、親切である。

【事務局】

計画への反映を検討したい。

【委員】

資料③p. 44の侵食からの防護について、現状の汀線維持を基本的な目標として記載されているが、海面上昇の進行により、汀線の回復が困難となる場合も想定されるため、計画には目標を見直す等、もう少し柔軟に対応できるような表現にしてはどうか。

【事務局】

意見を踏まえ、計画への記載内容を検討する。

【委員】

内湾の計画外力設定では発生波が重要だが、将来の風の変化はどのように評価しているのか。

【事務局】

将来の風の変化は、気候予測データベースの風速・風向データを用いて、将来変化比を算出し、評価している。

気候変動後の確率風速は、観測所の観測データから算出した現行の確率風速に将来変化比を乗じる方法で算出しており、技術検討会において審議いただいた。